

MICE 団体に提案する“八王子観光”の魅力

～多様な主体と連携した見どころと食の開発～

帝京大学 小笠原永隆ゼミナール

担当教員 小笠原永隆

代表者名 山頭柚乃

① 要約

“八王子”の“強み”を活かした MICE 誘致が可能となるような方策について研究し、提案するために、コンベンション及び宿泊施設が多くあり、伝統ある街である八王子駅周辺を中心とした「観光都市(地)・八王子」を中心として、様々な活用資源について調査を行った。

エクスカーションの試行にあたっては、大学コンソーシアム学生企画事業における各大学の研究結果に注目し、取り入れられるものをできるだけ取り込む方向で検討を進めた。分野は主に食品、お土産品、パーティー等における演出とし、昨年度の研究成果をもとにして抽出し、担当された各大学の教員を訪問し、実現可能性について協議を重ねた。さらに、ツアーの試行実施についても、エクスカーションの検討を行っていた大学と共同で開催を行った。

この結果、大学連携による MICE 誘致方策は、非常に有効であり、八王子の MICE 誘致における優位性を高めることが期待されることが明らかとなった。しかし、同時に連携の難しさも浮上した。今後は、こうした問題点を解決しながら、広い視野に立って連携の取り組みを広げていくことが、八王子全体の地域活性化に役立つことが期待される。

② 目的

八王子は、JR 線及び京王線によって都心と直結し、コンベンション施設としてもオリンパスホール、学園都市センターなど、大小さまざまなニーズに対応可能であることに加え、宿泊施設も多く、MICE に係る高い可能性を有している。

この可能性を活かし、誘致をより強化するためには、いわゆる「アフター・コンベンション」への魅力を高めること、つまり会議やレセプション終了後の楽しみ、そしてエクスカーションの機会をつくるとともに、それに参加しやすい雰囲気づくりが必要不可欠である。

こうしたことを実現するために、八王子ならではの多様な主体が連携し、他地域とは違った MICE の受け入れ態勢を作っていくことが必要不可欠である。今年度の研究では、そのための手法を開発していくことを目的とした。

③ 方法

昨年度に引き続き、“八王子”の“強み”を活かした MICE 誘致が可能となるような方策について研究し、提案することを目的に進めていくこととした。具体的には、コンベンション及び宿泊施設が多くあり、伝統ある街である八王子駅周辺を中心とした「観光都市(地)・八王子」を中心として、様々な活用資源について調査を行った。さらに、エクスカーションの実施にあたっては、大学コンソーシアム学生企画事業における各大学の研究結果に注目し、関連付けられるものをできるだけ取り込む方向で検討を進めた。分野は主に食品、お土産品、パーティー等における演出とし、昨年度の研究成果をもとに抽出し、担当された各大学の教員を訪問し、実現可能性について協議を重ねた。さらに、試行ツアーの実施自体についても、エクスカーションの検討を行っていた大学と共同開催をすることとし、1月11日に実施した。

④ 結果

(1) 現状分析

昨年度の研究活動で行った SWOT 分析では(図1)、八王子の「強み」に「学園都市」があり、これを軸とした戦略を立てることを検討した結果、八王子に所在する大学が連携することで、同じく MICE 誘致を目指す地区に対して、優位性を得られるものと予想された。そこで、昨年引き続き、魅力的なエクスカーションを考えるための資源調査を継続するとともに、昨年度の大学コンソーシアム学生企画事業における各大学の研究成果を調査し、エクスカーションに取り込むことができるものを探索した。

強み 伝統ある“絹織物”産業都市 たくさんある「会議施設」 「学園都市」⇒大学等との連携 都心に直結する交通	弱み 強すぎる“高尾山”のイメージ 象徴する「お土産品」がない MICE開催のメリットが不明確
機会 都心部の飽和現象 ⇒高い料金のうえ、確保も困難 (MICE会場も 宿泊も) 多摩地域の観光重視政策 ⇒「PRIME 観光都市・東京」	脅威 “ライバル”の出現 ⇒「立川」「多摩センター」の成長 進む都心部への集中 ⇒特に外国人観光客

図1 八王子MICEに関するSWOT分析

(2) ツアーの検討

エクスカーションについて討議した結果、開催時期や開催団体のニーズに合わせたものを考える必要性を感じ、夏季向け、冬季向け、外国人富裕層向けの行程案を作ることとした。そして、各行程ごとに市内資源のピックアップ作業を実施し、そのうちのいくつか(八王子城、うかい鳥山、八王子織物会館など)については、実際に現地へ行き、状況の確認を行った。また、八王子芸者や車人形など芸能方面についても調査し、夕食会やパーティー等への活用可能性についても調査、討議を行った。

(3) 他大学との連携検討

他大学の研究成果を検討した結果、お土産品やアフタヌーンティー、食事の際のデザート等に活用できるものとして、創価大学丸田ゼミが八王子産の高月清流米の米粉を使用して開発したスイーツである「チョコブラウニー」(創価大学工学部丸田ゼミ 2019)、創価女子短期大学水元ゼミが伝統野菜である八王子ショウガを用いて開発した「バスボム」に着目した(創価女子短期大学水元ゼミナール 2019)。そこで両大学を訪問し、エクスカーション等への利用可能性についてヒヤリングを行った。

その結果、八王子ショウガを活用した「バスボム」は好評であったが、製造を行う業者が見つからず、発表後の製作は行っていない、とのことであった。しかし、今年度はクッキー等のスイーツを製作するとのこと、試作品をいただくことができた。ショウガの風味がちょうどよく感じられ、誰にでも好まれる味と感じた。また、焼き菓子ということで日持ちもするので、お土産品やエクスカーションの休憩時にお出しするお菓子としても十分に活用できると感じられた。

また、「チョコブラウニー」は要冷蔵で日持ちがせず、MICE参加者のお土産品としては不適であることが判明した。しかし、開発者である丸田教授から高月清流米を使用し、“はちぷろ”が開発した日本酒「高尾の天狗」を醸造する際に出た米粉(吟醸酒「高尾の天狗」の場合、精米歩合が約60%であり、米粒の約40%が米粉となり、肥料として用いられるほかは、基本的に廃棄していた)を利用して製造していることをご教示いただいた。そして、丸田教授から「高尾の天狗」と「チョコブラウニー」(図2)を合わせると美味しい、とのお話を聞き、ゼミ所属学生を対象として試食調査を行った。その結果、チョコブラウニーは大変好評であったが、高尾の天狗は普通、掛け合わせは普通～悪くはない、という意見が大半を占めた。ほぼ全員の学生が、日本酒を飲まない、好まない、という状態であり、その面から考えると、両者の掛け合わせはそれほど悪くない、という結果とも読み取れるかと思われた。



図2 「高尾の天狗」(左、「はちぷろ」開発)とチョコブラウニー(右、創価大学丸田ゼミ開発)

次に、ツアーやパーティー時の演出に活用できるものとして、東京造形大学により夜間の野外イベントに実践されたていた「プロジェクションマッピング」に着目した(東京造形大学メディアデザイン研究室 2019)。資源調査を実施した八王子城跡の石垣に投影することで、新しい形のエクスカーションの訪問先ができるのではないかと期待した。そこで、指導教官である栗野教授にその旨を話したところ、非常に興味を示していただいた。しかし、訪問した時は、学生の作品制作テーマが決まった後であるうえ、試行ツアーの実施時期(12月～1月)が作品の発表会など多くの行事が集中する時期であることにより、難しいかもし

れないとのお話をいただいた。栗野教授には、その後も実現に向けた検討を重ねていただいたが、最終的に今回の実施は断念せざるを得なかった。

(4) 試行ツアーの実施

試行ツアーの実施については、昨年に引き続きツアーコースの検討を行う杏林大学古本ゼミと共同で1月11日に開催することとした。全体調整は杏林大学側が行い、コンテンツを両大学で分担した。本ゼミは上記大学の成果を活用することを狙いとして、ツアー中の休憩を兼ねた「網代園」（横山町の老舗日本茶専門店）での日本茶とおやつ、夜間の八王子城跡見学、夕食会を担当した。網代園では、古い土蔵の中で日本茶とお菓子（創価女子短期大学水元ゼミが開発した「八王子しょうがクッキー」と「同マドレーヌ」（図3））をお出しするとともに、女将である網代邦子氏に昔の八王子の歴史などのお話をしていただいた。



図3 八王子しょうがクッキーとマドレーヌ
（創価女子短期大学水元ゼミ開発）

八王子城跡では、先述した理由によりプロジェクトマッピングができず、その代替案としてプラネタリウム装置（MEGASTARシリーズの可搬型で野外投影が可能なもの）を（株）大平技研よりお借りし、投影実験を行った。当初は、投影場所として御主殿の入口となる石垣部分を想定したが、最近は夜間にイノシシが出没するなど危険が多いと事前に八王子市教育委員会の方からアドバイスをいただき、城跡入口部分にある案内施設付近で実施することとした。結果として、投影に適した壁面がある部分に消すことのできない街灯照明があったため、思ったより暗い部分が得られず、不調に終わった。

夕食会場は、ジンギスカン料理を中心とする「羊之丈」（旭町）で実施した。同店を選択した理由は、今回の参加者にムスリムの方が数名いたため、禁忌とならない羊肉料理を出せること、経

営者および店長の協力により、以前より「高尾の天狗」と「チョコブラウニー」の同時提供を行っていることによる。羊肉料理は大変好評で、どの国籍の方からも大変好評であった。さらに、「高尾の天狗」と「チョコブラウニー」の掛け合わせについても大変好評で、今後の活用に手ごたえを感じることができた。蛇足ではあるが、先の八王子城跡のリベンジとして店内を暗くしていただきプラネタリウムの投影を試みた。意外に評判は悪くなく、こうした夕食会場等での演出にも効果的であることが検証できた。

以上、資源調査及び試行ツアーの実施結果に基づいて、夏季・冬季という季節別の行程案、外国人富裕層を対象とした行程案を作成した（図4～図6）。

■ 夏ツアーの行程(案)

- 15:00 JR八王子駅改札集合・出発
【徒歩20分】
- 15:20 八王子織物会館(歴史と手織り体験) 90分
【徒歩10分】
- 17:00 芸者衆見学 60分
【徒歩3分】
- 18:03 網代園(お茶・お菓子の試食) 35分
【バス乗車・30分】
- 19:10 八王子城跡(プロジェクションマッピング) 15分
【バス乗車・30分】
- 19:50 夕食会「羊之丈」(約2時間)※「八王子 ゆうご」&「南国酒場 EBISUYA」
【徒歩3分】
- 21:55 JR八王子駅周辺で解散(宿泊ホテルへ)

注：行程中に「八王子ショウガスイーツ」の提供と「高尾の天狗」+「チョコブラウニー」の同時提供が行われる。

図4 夏季ツアー行程案

■ 冬ツアーの行程(案)

- 14:00 JR八王子駅改札集合・出発
【バス乗車・30分】
- 14:30 高月清流米(お土産購入、お酒・お菓子の試食) 60分
※もしくは八王子道の駅 60分
- 17:00 八王子城跡(プロジェクションマッピング) 30分
【バス乗車・30分】
- 18:00 夕食会「羊之丈」(約2時間)
※「八王子 ゆうご」&「南国酒場 EBISUYA」
【徒歩3分】
- 20:03 JR八王子駅で解散
おみやげ 八王子ショウガスイーツ

注：行程中に「高尾の天狗」+「チョコブラウニー」の同時提供が行われる。

図5 冬季ツアー行程案

プレミアムツアーの行程案

集合：八王子駅 → 見学：オリンパス瑞吉洞 → 歴史：うかい鳥山 + 芸者さん体験

夕食：「高尾の天狗」+「チョコブラウニー」 → アフタヌーンティー：網代園 → 着物の着付け体験 + まち歩き

注：行程中に「高尾の天狗」+「チョコブラウニー」の同時提供が行われる。

図6 プレミアムツアー行程案

⑤考察

今回は、大学コンソーシアムにおける各大学の研究成果を活かす形での MICE 誘致につながるエクスカージョンをツアーの行程を考えたが、主に試行ツアーの実施結果を通じて感じられた、今後の課題を以下に示す。

まずは、できるだけ多くの大学の研究内容を精査する必要がある、ということである。一見、観光に関係がないと思われる研究でも、ちょっとした「気づき」で「観光の素材」になると思われる。また、ツアーの「どの部分」にあてはめれば良いのか、という視点で考えてみると、違った見方ができるとも考えることができる。よって、今後はできるだけ多くの大学の研究成果の内容を精査することが求められる。

次に、なるべく早いうちからの「動きだし」と「意思疎通」が重要であると思われた。今回の反省点として、動き出しが遅かったこともあり、特に試行ツアーの実施における事前の意思疎通がうまくいかず、トラブルも発生してしまったことが大きく挙げられる。また、協議を始めた時は、既に年間の方針が決まっており、いくら実施したくてもお互いの都合を磨り合わせることもこんなになってしまい、結局できなかったことも悔やまれる。

これらのことから、連携をより良いものとするためには、できるだけ早いうちから行動を開始し、実際に顔を合わせての協議重ねて行くことが肝要であると思われる。その際は、結論を焦らず、ゆっくりと、アイデアを出し合っていくことが、お互いに理解を進めることにつながり、連携を進めていくことができると考えられよう。

そして、今回のような連携の実践をさらに進め、ノウハウを蓄積していくことで、八王子に所在する大学が、それぞれの研究成果を活かした MICE 実施体制を作っていくことができれば、誘致の際に“八王子の特色”として、観光関係の強いアピール材料となるだけでなく、地域の方々の連携も深まり、結果として「地域づくり」に役立っていくと確信する。

⑥結論

八王子の MICE 誘致は、地域の強みである“歴史と伝統文化”“多様な主体”を十二分に活用したしたエクスカージョン・お土産品の継続的な開発が求められることは言うまでもないだろう。

特に、今年度の試みのように、市内に多くある大学の研究成果を持ち寄り、コラボレーションすることで、新しい活用資源の開発が可能となることが大きく期待される。大学コンソーシアム八王子は、まさにこのような「知」が「交流」する場であり、八王子の大きな可能性を秘める場所であるとも言えよう。

しかし、連携を進めるためには主体となる目的を持つところが主体となり、マネジメントする必要がある。MICE 誘致の場合は、観光の視点を持つ大学が中心となり、他大学の研究成果を取り込むことを検討し、協議を進め、形を作っていく作業をすることが求められる。もちろん、中心となる大学は、大きな目的によって変わるものであり、主役と脇役はその都度交代していくこととなる。

今後は、今回の反省点を踏まえ、より良い連携が進めていくことができるように、早期から行動し、意思疎通を図っていくこととしたい。こうした取り組みが入王子 MICE 誘致の優位性を高めることになるだけでなく、様々な分野の取り組みのモデルとなることで、八王子全体の活性化につながっていくものと考ええる。

⑦参考文献

杏林大学古本泰之ゼミナール(2019), 八王子市内観光資源を活用した MICE 参加者向けツアー・ユニークベニュー企画の立案, 平成 30 年度学生企画事業補助金事業報告書, 大学コンソーシアム八王子.

創価女子短期大学水元ゼミナール(2019), 八王子ショウガがもたらす beautiful life —八王子ショウガを使った商品開発事業 (バスボム) —, 平成 30 年度学生企画事業補助金事業報告書, 大学コンソーシアム八王子.

創価大学理工学部丸田ゼミ(2019), バイオ技術と地域企業との連携による八王子特産高月清流米を利用した加工食品の開発 (八王子の農業の活性化と 6 次産業化支援活動), 平成 30 年度学生企画事業補助金事業報告書, 大学コンソーシアム八王子.

東京造形大学メディアデザイン研究室(2019), 八王子ナイトウォーク～星の実の生る森へ～, 平成 30 年度学生企画事業補助金事業報告書, 大学コンソーシアム八王子.